

## 関東教育学会第 68 回大会シンポジウムのご案内

第 68 回大会準備委員長

滝沢和彦（大正大学）

別紙ご案内の通り、関東教育学会第 68 回大会のシンポジウムはテレビ会議システム（Zoom）を用いたオンライン・シンポジウムとして開催することとなりました。以下、テーマとテーマ設定の趣旨等につきましてご案内申し上げます。

### 記

#### 1、日 程

2020 年 11 月 29 日（日曜日）

14 時 00 分～17 時 00 分

#### 2、開催方法

テレビ会議システム（Zoom）による

#### 3、テーマ

学校と地域社会の連携を考える

※日本教育学会（関東地区）と共催予定

#### 4、テーマ設定の趣旨

本年 4 月から実施の新しい学習指導要領の眼目の一つが「社会に開かれた教育課程」である。もともなった 2016 年 12 月の中教審答申では、新しい教育課程の実施のために、地域の人的・物的資源を活用すること、社会教育と連携すること、学校教育の目指すところを社会と共有・連携させること、等の必要性が謳われた。

また、2015 年の中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて」では、今日の「新たな教育課題」として「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善」「ICT を用いた指導法」「道德教育の充実」「外国語教育の充実」「特別支援教育の充実」等々を挙げ、これらへの対応を研修段階とともに教員養成段階にも求めている。「こうした新たな教育的課題に対応していくためには、保護者や地域の力を学校運営に生かしていく視点も必要である。学校が地域づくりの中核を担うという意識を持ち、学校教育と社会教育の連携の視点から、学校と地域の連携・協働を円滑に行うための資質を養成していくことも重要となってきたことから、教職課程においてその取扱いの充実を図るべきである。」（同答申）このように、「学校と地域の連携・協働」を円滑に行う資質が「新たな教育的課題」全体に関わって必要とされ、その養成

が求められているのである。

このように、新教育課程の実施、及びこれに対応する教員養成の在り方を視野に入れて、本シンポジウムでは「学校と地域社会の連携」をテーマとして掲げたい。

シンポジストからは

- ①学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の事例報告
  - ②総合的な学習の時間等における社会教育施設（図書館等）の活用事例報告
  - ③地域社会における学びの機会をどう提供するかーNPOからの事例報告
  - ④大学は地域の課題をどう取り上げているかー大学における実践事例報告
- 等々についての報告をお願いし、今後の課題や方向性について議論してみたい。

#### 5、シンポジスト

- ①港区立南山小学校校長 難波明夫氏
- ②大正大学教授 稲井達也氏
- ③NPO 法人 SLC 代表理事 幅野裕敬氏
- ④大正大学専任講師 齋藤知明氏

#### 6、参加申し込み

テレビ会議システムを利用するため、参加は事前申し込み制とする。申し込み者には事前にミーティング ID とパスワードを送付する。

事前申し込みの期間と方法については、改めて学会 HP において告知する。

以上